



東明

□令和4年4月25日発行

□男鹿市立男鹿東中学校

男鹿市船越字根木169番地

東中は創立50周年を迎えました

令和4年度、274名で勢いよくスタートです。

4月7日、100名の新入生を迎え、全校生徒274名、教職員40名で、令和4年度がスタートしました。春の日差しの中、校庭に咲き誇る桜の花たちのように、東中全体がエネルギーに満ちあふれています。今年度も男鹿東中学校をどうぞよろしく願いいたします。

【教育目標】

英志つらぬけ

～和して、問い、答え、考え、創造しよう
ゆめはばたかせ～

【三つの志と目指す生徒像】

学 見通しをもって自ら学ぶ生徒
挑 自信をもって笑顔で挑戦する生徒
結 仲間や地域と絆を結ぶ生徒

昨年度に引き続き、教育目標、三つの志、目指す生徒像は上記のとおりです。教育目標「英志つらぬけ」及び副題は校歌に歌われている言葉です。創立50周年を迎えた今こそ、本校の歴史と伝統の重み、先輩方の志の高さに思いを馳せ、次の50年に向けて、決意新たに突き進んでいこうという願いを込めています。

三つの志に共通する行動「挨拶」

教育目標と三つの志「学、挑、結」を実現するための共通する行動があります。それは「挨拶」です。

本校では、生徒会、学年委員会、生活委員会などが中心となって行う毎朝の挨拶運動が伝統になっています。高校入試に向けた面接練習では、多くの先輩たちが本校の特色として挨拶運動を挙げていました。

新年度も、さわやかな挨拶と笑顔で、一日がスタートしています。私は、朝の東中生の挨拶から、たくさん元気と勇気もらっています。そして、挨拶をきっかけに皆さんと交わす一言は、私の一日の活力にもなっています。挨拶のもつ素晴らしさを東中生から教わりながら毎日を過ごしているといっても過言ではありません。

そこで、私たちがこの伝統をしっかりと受け継ぎ、更に発展させていくために、今回は挨拶という言葉の意味を考

えてみます。（始業式でも話しました。）

「挨拶」の挨（あい）という文字には「心を開く」という意味が、そして、拶（さつ）という文字には、「その心に近づく」という意味があります。つまり、挨拶は「自分の心を開くことで相手の心を開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為」であると言えます。挨拶がコミュニケーションの第一歩だといわれるのは、このような背景にあります。

次に、三つの志に近づく挨拶とするために、挨拶の行動の意味を三つのステップに分けて考えます。

【ステップ①】

立ち止まって相手に視線を届けます。「私は心を開いてあなたを受け入れます」、「あなたとコミュニケーションを取りたいのです」というメッセージを態度で伝えます。挨拶は「eye 拶」、目と目を合わせることから始まります。

【ステップ②】

明るい声で、挨拶の言葉をしっかりと届けます。相手に届く大きな声で、明るい挨拶を届けます。相手に届かなければ挨拶とは言えません。

【ステップ③】

最後に、心を込めて会釈をします。「受け入れてくれてありがとう」、「これからもよろしくお願いします」という心を会釈という行動で伝えます。

「挨拶」という言葉の意味と、三つのステップの行動の意味を踏まえ、東中生の挨拶をますますパワーアップさせていきましょう。



人は、人と関わらずに生きていくことはできません。いくら自分で何かを成し遂げたとしても、必ずその陰には支えてくれた人、応援してくれた人がいます。また、何か困難に直面したとしても、SOSを発すると助けてくれる人がいます。ただし、忘れてはいけないのは、そのような人たちとつながりは自分がつくるものであり、そのきっかけは全て挨拶から始まっているということです。

コミュニケーションの始まりである挨拶、三つの志を実現するための共通する行動である挨拶に、令和4年度は一層磨きをかけ、秋田一、いや、日本一、さわやかで明るい挨拶が響き合う学校にしていきたいと思えます。生徒会、学年委員会、部活動でも、活動の重点にすえ、今まで以上に挨拶であふれる東中にしていきましょう。（文責：校長 森山）